2007年度日本語補講コースの改編報告

―カリキュラムの改編と技能別シラバスの整備―

加納　千恵子

要　旨

多様化する外国人留学生のニーズに応えるべく、2004年4月に留学生センターで開講している日本語コースのカリキュラムの再編を行った（加納　2005）。その結果、学生が自分のニーズに合わせて、集中・半集中コースおよび補講コースのそれぞれを組み合わせて受講できるようにモジュール化する試みは一定の成果をおさめたと言える。しかし、日本語補講コースについては、(1) 初級の各コースをスリム化した結果、短期留学生の場合、1年間で初級を終えることが難しくなった、(2) 中級・上級を「一般日本語コース」と「アカデミック日本語コース」とに分けたが、実際にはどちらにも様々な目的の学生が混じっており、「目的別」クラスの意義は実現できなかった、(3) 大学全体の経費節減、人員削減の中で留学生教育を強化するためには、むしろ技能別にシラバスを整備する方が効率的なのではないか、などの課題が見えてきた。そこで、2007年度4月に留学生センター日本語補講コースの改編を行ったので、その報告を行う。

【キーワード】日本語補講コース　カリキュラムの改編　目的別クラス　技能別クラス　技能別シラバスの整備

Report on the Reorganization of the Japanese Language Training Program at ISC in 2007: curriculum change and development of skill-based syllabi

KANO Chieko

【Abstract】We reorganized the curricula of Japanese language courses in 2004 in order to respond to the various needs of the international students of the International Student Center of this university. As a result, we created a modular structure of the courses so that each student can choose different courses and classes depending on his/her needs. However, we found problems, such as; (1) by making beginners' courses smaller, it has become difficult for short-term exchange students to finish beginners' level within one year, (2) having divided the intermediate and advanced courses into two streams; "Standard Japanese courses" and "Academic Japanese courses" , but actually both courses were attended by students with different purposes, (3) because of budgetary cutbacks and staff reduction, it might be more economical and effective to develop skill-based syllabi for each level instead of giving many small classes for different purposes. In this paper, we report on the reorganization of the Japanese language training program at the ISC in 2007.

【Keywords】Japanese language training program, curriculum change, classes for different purposes, classes for different skills, development of skill-based syllabi

1.　はじめに

2004年4月に大学の法人化という大きな節目を迎えた筑波大学留学生センターの日本語等教育部門では、以前から多様化しつつあった外国人留学生の日本語学習ニーズに応えるため、本センターで開講している日本語コースのあり方を検討した結果、2004年度から、日本語コース・カリキュラムの再編を行ったが、それは、以下の4つの方針による再編であった（加納　2005）。

(1) 初級では、各コースをさらにサイズダウンすることによりコース数を増やし、受講しやすくする。

(2) 中上級では、比較的日本語レベルの高い、日本語や日本文化に興味のある学習者向け一般日本語コースと、勉学･研究などに必要なアカデミック日本語コースとを分ける。

(3) 上級では、それぞれ技能別、目的別にできるだけ多くのクラスを開設するが、受講者が一定以上集まらない学期は開講しないこととする。

(4) 各コース・クラスをニーズに合わせて組み合わせて受講できるようにモジュール化を図る

本稿では、2004年度～2006年度の3年間の実施を経て、解決された問題および新たに問題となった点について報告する。そして、それらを検討した結果、2007年4月に日本語補講コースの改編を行ったのでその概要を紹介しつつ、今後の課題として技能別シラバスのさらなる整備の必要性について、および大学全体の国際化、留学生交流の中で留学生センター日本語等教育部門の果たすべき役割について、さらに大学院における日本語教師養成プログラムとの協力関係の可能性などについても述べる。

2.　2004年度のコース・カリキュラム再編

2004年度の日本語コース・カリキュラム再編の主な要因は3つあった。1つは、初級レベルの短期留学生が急増していたこと、もう1つは、従来からいる日本語日本文化研修生のような日本語レベルの高い学部留学生に加えて、日本語・日本文化学類との協定や中央アジア連携センターなどによる中上級の短期留学生も急増し、レベルが両極化していたことである。さらに3つ目は、日韓理工系学部予備教育生の受け入れによる新たなニーズの誕生であった。

その一方で、大学院受験を目指す研究留学生も依然としており、人文社会系か理工系かなど専門分野によって要求される日本語の必要度は異なるものの、アカデミックな学習目的による日本語教育の必要性も大きいのである。

このような多様なニーズに答えるため、同時に大学の法人化に向けて各部局が予算削減に努めるという流れの中で､2004（平成16）年度には先述の4つの方針によって日本語コース･カリキュラムの再編が行われることとなった。再編のポイントは大きく2つあり､コー

ス・クラスのモジュール化と、多目的化である。

本センターにおいては、それまで「予備教育コース」「補講コース」「短期留学生用コース」「日韓理工系学部留学生用コース」といった考え方をしていたが、コース開始時期、時間数、短期目標などによるコース設定を行うことにより各コースをコンパクトにまとめ、モジュール化して、互いに自由に組み合わせができるように工夫した。具体的には、従来の予備教育コースを「集中コース」と「半集中コース」に分け、4 月と 10 月の国費留学生の来日時期を活かしながらも、3 学期制の補講と相互乗り入れが可能になるように、開講時期を春学期（4 月～ 6 月末）、夏学期（7 月のみ）、秋学期（10 月～ 11 月末）、冬学期（1 月～ 3 月）とし、必要に応じて補講コースに転出して学習を続けられるようなシステム（表 1）を考えた。

表 1　2004（平成 16）年度留学生センターの日本語コースモジュール

	4 月 12 日～ 6 月 30 日　予備春学期				一般日本語コース 4月7日-12日受付、13日1学期用PT、16日Orientation	
4月	Orientation & Warming-up					
5月 6月	前期 集中A （研修室 A）	前期 集中B （研修室 B）	前期 半集中 C （研修室 C） 午前	前期 半集中D （研修室 D） 午後	4 月 19 日 1学期開始 6 月 30 日 1学期終了	1学期 S J コース 週 4 コマ× 10 週 （研修室 G/H/I/J） / 1学期 JSP コース 週 1 コマ× 10 週 （研修室 G/H/I/J）
	7 月 5 日～ 7 月 30 日　予備夏学期					
7月	夏 集中A （研修室 A）		夏 半集中 C 午前(研修室 C)	夏 半集中D 午後(研修室 D)		
8月 9月	8月・9月　予備教育夏休み				8月31日-9月3日受付、9月6日PT、10日Orientation	
10 月	Orientation & Warming-up				9 月 3 日 2学期開始 11 月 25 日 2学期終了	2学期 S J コース 週 4 コマ× 10 週 （研修室 G/H/I/J） / 2学期 JSP コース 週 1 コマ× 10 週 （研修室 G/H/I/J）
11 月 12 月	後期 集中A （研修室 A）	後期 集中B （研修室 B） （教員研修）	後期 半集中 C 午前(研修室 C) （日韓）	後期 半集中D 午後(研修室 D) （日研生）	11月29日-12月3日受付、12月6日PT、10日Orientation	
	12 月 11 日～ 1 月 10 日　予備教育冬休み				12 月 3 日 3学期開始	3学期 / 3学期
1月 2月 3月	冬 集中A （研修室 A）	冬 集中B （研修室 A） （教員研修）	冬 半集中 C 午前(研修室 C) （日韓）	冬 半集中D 午後(研修室 D) （日研生）	冬休み 3 月 4 日 3学期終了	S J コース 週 4 コマ× 10 週 （研修室 G/H/I/J） / JSP コース 週 1 コマ× 10 週 （研修室 G/H/I/J）

コース・クラスの多目的化については、補講コースを、大きく「一般日本語（Standard Japanese）コース」と「目的別・技能別（Japanese for Specific Purposes）コース」の 2 つに分け、大学院受験を目指す比較的年齢の高いアカデミック指向の研究留学生と、日本文化体験指向の若い学部の短期留学生の両方のニーズに対応できるように工夫した。

「一般日本語コース」の方は、基礎的な文法知識を与えながら、大学生活における日常的な会話、聞き取りなど、口頭日本語運用能力をつけることを目的とし、「目的別・技能別コース」の方は、研究に必要なアカデミックな日本語運用力をつける「アカデミック日本語」クラスのシリーズと、日本文化一般に対する理解を深めながら日本語の技能をブラッシュアップするクラスのシリーズとに大きく分けた。学生のニーズ動向を見ながら、できるだけ多くのup-to dateなトピックによる日本語クラスを提供するが、受講者が5名以上集まらない学期には開講しないこととし、経営の合理化も図ることとした。

以下に、2004（平成16）年度の日本語コース概要（表2）を示す。

表２　2004（平成16）年度留学生センターの日本語コース概要

コース名	クラス	レベル	コマ数	対　象	主教材・内容	開講時期
日本語集中コース	春季クラス	初級前期	週20コマ×11週	予備教育生	『SFJ』vol.1～vol.2	4月～6月
	夏季クラス	初級後期	週20コマ×4週	予備教育生	『SFJ』vol.3	7月
	秋季クラス	初級前期	週20コマ×8週	予備教育生	『SFJ』vol.1～vol.2	10月～12月
	冬季クラス	初級後期	週20コマ×7週	予備教育生	『SFJ』vol.2～vol.3	1月～2月
日本語半集中コース	春季クラス	初級後期	週10コマ×11週	予備教育生	『SFJ』vol.2～vol.3	4月～6月
	夏季クラス	中級前期	週10コマ×4週	予備教育生	中級教材	7月
	秋季クラス	初級後期	週10コマ×8週	予備/日韓/日研	『SFJ』vol.2～vol.3	10月～12月
	冬季クラス	中　級	週10コマ×7週	予備/日韓/日研	中級教材	1月～2月
一般日本語コース SJコース	SJ1-1	ゼロ初級	週4コマ×10週	短期留学生および研究留学生	『SFJ』vol.1(L1-4)	4月～6月／9月～11月／12月～2月
	SJ1-2	初級前期	週4コマ×10週		『SFJ』vol.1(L5-8)	4月～6月／9月～11月／12月～2月
	SJ2-1	初級中期	週4コマ×10週		『SFJ』vol.2(L9-12)	4月～6月／9月～11月／12月～2月
	SJ2-2	初級中期	週4コマ×10週		『SFJ』vol.2(L13-16)	4月～6月／9月～11月／12月～2月
	SJ3-1	初級後期	週4コマ×10週		『SFJ』vol.3(L17-20)	4月～6月／9月～11月／12月～2月
	SJ3-2	初級後期	週4コマ×10週		『SFJ』vol.3(L21-24)	4月～6月／9月～11月／12月～2月
	SJ4-1	中級前期	週2コマ×10週		中級教材	4月～6月／9月～11月／12月～2月
	SJ4-2	中級前期	週2コマ×10週		中級教材	4月～6月／9月～11月／12月～2月
	SJ4-3	中級中期	週2コマ×10週		中級教材	4月～6月／9月～11月／12月～2月
選択漢字クラス	K 1-1	漢字0～150字	週1コマ×10週		『BKB』vol.1(L1-11)	同　上
	K 2-1	150～250字	週1コマ×10週		『BKB』vol.1(L12-22)	〃
	K 2-1	250～350字	週1コマ×10週		『BKB』vol.2(L23-35)	〃
	K 2-2	350～500字	週1コマ×10週		『BKB』vol.2(L36-45)	〃
	K 3-1	500～650字	週1コマ×10週		『IKB』vol.1(L1-4)	〃
	K 3-2	650～800字	週1コマ×10週		『IKB』vol.1(L4-7)	〃
	K 3-3	800～1000字	週1コマ×10週		『IKB』vol.1(L7-10)	〃
目的別・技能別クラス	レベル5	中級後期	各週1コマ×10週	短期留学生および研究留学生	※約30科目(別リストを参照)	4月～6月／9月～11月／12月～2月
	レベル6	中上級	各週1コマ×10週		※約30科目(別リストを参照)	4月～6月／9月～11月／12月～2月

3.　2004 年度から 2006 年度の日本語コース・カリキュラムの運用

2004 年 4 月から 2007 年 3 月までの 3 年間、先述のような日本語コース・カリキュラムを運用してきた結果について、報告する。

3. 1　コースのモジュール化

まず、予備教育コースのモジュール化については、ある一定の成果を上げたと言える。例えば、4 月来日の国費留学生が 8 月末の大学院入試を受験する場合、従来の 18 週の予備教育では、受験前の 2 か月くらいの間は、入試のことが気になって日本語の学習に身が入らなかったり、準備のためと称して欠席したりする学生もいたが、モジュール化によるコース期間短縮により、春季集中コース（4 月～ 6 月末の 11 週間）の予備教育の間は、かなり日本語の学習に集中できるようになった。7 月、8 月の夏季休暇中に受験準備ができるからであろう。10 月あるいは翌年の 2 月に入試のある学生の場合は、春季集中コース修了後、夏季集中コース（7 月の 4 週間）を続けて受けることもできる。そして 9 月からは、補講コース 2 学期に申し込んで、日本語の学習を続けることができる。8 月末に受験する予定の学生であっても、中には、日本語力を維持するために、集中ではなく半集中で夏季コースを受けるというケースも見られた。午前中に日本語を勉強し、午後から研究室に通うことによって、日本語の勉強と受験準備の両立を図ることも可能になったのである。

また、10 月来日の国費留学生の予備教育の場合、大学院入試を必要としない教員研修留学生や日本語日本文化研修留学生、日韓理工系学部留学生などがコースの半数以上を占める。2 月に受験する学生の場合は、秋季集中コース（10 月～ 11 月末）修了後、12 月と 1 月を受験準備に集中する者が多いが、その他の学生は、自分達の必要に応じて、コースを選択することができる。教員研修留学生の場合は、教員研修プログラムの専門の授業が本格的に始まるのは、半年間の日本語の学習の後であるため、秋季コース修了後、続けて冬季コースを履修することが多い。日本語日本文化研修留学生の場合は、すでに日本語のレベルが中上級に達していることから、秋季の半集中コースで 10 月～ 11 月末まで日本語を学習し、12 月からは補講コース 3 学期に申し込んで留学生センターで日本語の学習を続けながら、並行して日本語・日本文化学類の日本文化関連の科目も履修することができる。また、日韓理工系学部留学生の場合は、翌年 4 月から一般の日本人学生と同じ授業を受けて単位を取れるだけの日本語力をつける必要があることから、秋季集中コースに加えて、理工系の専門日本語クラスや数学、英語などのクラスも開講して手当てをしている。日韓生だけで授業を行っていた時よりも、他の学生たちと交わることによって視野が広がり、また日本語学習が進むという利点もあるように思われる。

日本語の予備教育コースプログラムのモジュール化によって、留学生が自分たちの置かれた立場、ニーズに応じて日本語学習の選択の機会を増やすことができたことは、カリキュ

ラム改編の成果と言えるであろう。

ただ、補講コースの方では、初級コースのモジュールをスリム化しすぎたために、1年間で初級を終えることが難しくなったという問題も出てきた。本センターの教員が作成した初級日本語教科書『SFJ』は全24課であり、週4コマ10週間のコースで1学期に4課ずつ学習すれば、6コース（SJ1-1, SJ1-2, SJ2-1, SJ2-2, SJ3-1, SJ3-2）で初級が修了するが、それでは2年間かかってしまうことになる。中には、日本で生活しながら日本語を学習するため、飛躍的に日本語力が伸びて飛び級していく場合もあったが、専門の勉強の合間に日本語を学習する場合は、1レベルずつ上がっていくのが精一杯なのが現状であった。しかし、特に短期留学生の場合、自国で初級をやってきて、日本では中級をやって帰りたいという希望が多いが、筑波大学のプレースメントテストで初級にプレースされると、1年のうちに中級まで進むのはなかなか難しいことになってしまう。また、協定校によっては、1学期に10単位履修することという条件をつけている大学もあり、週4コマしか日本語のクラスがないのは少なすぎるという意見もあった。このようなスリム化されたモジュールは、専門の研究を主として日本語の学習は従であると考える、理工系の大学院研究生や正規生には歓迎されたが、日本語の学習を留学の主たる目的と位置づける短期留学生たちにとっては問題となったのである。

3.2　コースの多目的化

一方、補講コースの多目的化という方向づけは、必ずしも成果を上げることはできなかった。補講コースは、大きく「一般日本語（Standard Japanese）コース」と「目的別・技能別（Japanese for Specific Purposes）コース」の2つに分けられ、大学院受験を目指す比較的年齢の高いアカデミック指向の研究留学生と、日本文化体験指向の学部の短期留学生の両方のニーズに対応できるように工夫したが、実際には、「一般日本語コース」にも「目的別・技能別コース」にも両方のニーズの学生が混在しており、教師は目的によって適切な教材を選ぶのが困難な状況となった。また、学期末の学生による授業評価アンケート等を見ても、特に「目的別」クラスの意義はあまり認められていなかったように思われる。初級レベルのコースにおいては、基礎的な文法知識を与えながら、大学生活における日常的な会話、聞き取りなど、口頭日本語運用能力をつけることを目的としたため、すべての学生にとって必要な基礎力を提供することができ、受講者からの評価が高かったが、「目的別・技能別コース」の方は、研究に必要なアカデミックな日本語運用力をつけることを目的とする「アカデミック日本語」クラスのシリーズと、日本文化一般に対する理解を深めながら日本語の技能をブラッシュアップするクラスのシリーズとに分けたことの意義は、ほとんど認められなかった。以下に、2004（平成16）年度に開設された目的別・技能別クラスの一覧表を示す。

表３　2004（平成 16）年度留学生センターの目的別・技能別クラス一覧

コース名	クラス名	開設学期	レベル	内容	時間数
アカデミック日本語コース AJ コース	アカデミック漢字　AK４- a	1,2,3 学期	４レベル	理工系の漢字・漢字語彙	週１コマ× 10 週
	アカデミック漢字　AK４- b	1,2,3 学期	４レベル	人文社会系の漢字・漢字語彙	週１コマ× 10 週
	アカデミック漢字　AK４- c	1,2,3 学期	４レベル	日本事情の漢字・漢字語彙	週１コマ× 10 週
	アカデミック日本語 A５- a	１学期	５レベル	事実の記述・説明	週１コマ× 10 週
	アカデミック日本語 A５- b	２学期	５レベル	事実・意見を述べる	週１コマ× 10 週
	アカデミック日本語 A５- c	３学期	５レベル	引用・意見を述べる	週１コマ× 10 週
	アカデミック日本語 A５- d	1,2,3 学期	５レベル	調査・報告する	週１コマ× 10 週
	アカデミック日本語 A５- e	1,2,3 学期	５レベル	インタビューする	週１コマ× 10 週
	アカデミック日本語 A５- f	２学期	５レベル	説明する・質問する	週１コマ× 10 週
	日本語作文Ｉ　AW ５- a	１学期	５レベル	日本語作文ＩＡ	週１コマ× 10 週
	日本語作文Ｉ　AW ５- b	２学期	５レベル	日本語作文ＩＢ	週１コマ× 10 週
	日本語作文Ｉ　AW ５- c	３学期	５レベル	日本語作文ＩＣ	週１コマ× 10 週
	日本語演習Ｉ　A６- a	１学期	６レベル	日本語演習ＩＡ	週１コマ× 10 週
	日本語演習Ｉ　A６- b	２学期	６レベル	日本語演習ＩＢ	週１コマ× 10 週
	日本語演習Ｉ　A６- c	３学期	６レベル	日本語演習ＩＣ	週１コマ× 10 週
	日本語演習 II　A６- d	１学期	６レベル	日本語演習 IIA	週１コマ× 10 週
	日本語演習 II　A６- e	２学期	６レベル	日本語演習 IIB	週１コマ× 10 週
	日本語演習 II　A６- f	３学期	６レベル	日本語演習 IIC	週１コマ× 10 週
	日本語作文 II　AW ６- a	１学期	６レベル	日本語演習 IIA	週１コマ× 10 週
	日本語作文 II　AW ６- b	２学期	６レベル	日本語演習 IIB	週１コマ× 10 週
	日本語作文 II　AW ６- c	３学期	６レベル	日本語演習 IIC	週１コマ× 10 週
技能別目的別日本語コース JSP コース	韓国語と日本語文法 G４- a	1,2,3 学期	４レベル	韓国学習者向け文法	週１コマ× 10 週
	中上級文法　G５- a	１学期	５レベル	原因理由・目的・条件	週１コマ× 10 週
	中上級文法　G５- b	２学期	５レベル	逆接・名詞修飾	週１コマ× 10 週
	中上級文法　G５- c	３学期	５レベル	入れ子文・気持ちを表す助詞	週１コマ× 10 週
	中上級文法　G５- d	１学期	５レベル	考え述べ・文への組立て	週１コマ× 10 週
	中上級文法　G５- e	２学期	５レベル	る / た / ている / 受身使役	週１コマ× 10 週
	中上級文法　G５- f	３学期	５レベル	他者 / 話者.書き言葉 / 話し言葉	週１コマ× 10 週
	上級文法　G６- a	１学期	６レベル	助詞相当句の用法	週１コマ× 10 週
	上級文法　G６- b	２学期	６レベル	助詞相当句の用法	週１コマ× 10 週
	上級文法　G６- c	３学期	６レベル	助詞相当句の用法	週１コマ× 10 週
	上級文法　G６- d	1,2,3 学期	６レベル	上級認知文法	週１コマ× 10 週
	外来語と読解　R４- a	1,3 学期	４レベル	カタカナ語の読解	週１コマ× 10 週
	エッセイの読解 R４- b	1,2,3 学期	４レベル	エッセイを読み、話し合う	週１コマ× 10 週
	新聞の読解　R４- c	1,2,3 学期	４レベル	雑誌記事を読む	週１コマ× 10 週
	随筆の読解　R４- d	1,3 学期	４レベル	随筆を読み、感想を書く	週１コマ× 10 週
	小説・詩の読解 R５- a	2,3 学期	５レベル	小説・詩を読む	週１コマ× 10 週
	小説の読解　R５- b	２学期	５レベル	小説を読む	週１コマ× 10 週
	説明文の読解　R５- c	1,2,3 学期	５レベル	小説を読む	週１コマ× 10 週
	要約文を書く　W４- a	２学期	４レベル	文章を読み、要約する	週１コマ× 10 週
	400 字作文　W４- b	2,3 学期	４レベル	400 字程度の論理的文章を書く	週１コマ× 10 週
	大学生活の作文 W５- a	1,2,3 学期	５レベル	メールや通知などの文章を書く	週１コマ× 10 週
	聴解技能練習　O４- a	1,3 学期	４レベル	聴解のための技能練習	週１コマ× 10 週
	TV ドラマの聴解 O４- b	1,3 学期	４レベル	TV ドラマを見て感想を話す	週１コマ× 10 週
	TV アニメの聴解 O４- c	1,3 学期	４レベル	TV アニメを見て感想を話す	週１コマ× 10 週
	TV ドラマの聴解 O４- d	２学期	４レベル	TV ドラマを見て感想を書く	週１コマ× 10 週
	TV 映画の聴解　O４- e	２学期	４レベル	TV 映画を見て感想を話す	週１コマ× 10 週
	大学生活の会話 O４- f	1,2,3 学期	４レベル	日常場面の会話を練習する	週１コマ× 10 週
	話を伝える　O４- g	1,2,3 学期	４レベル	まとまった話を伝える練習	週１コマ× 10 週
	日本の歌　O４- h	1,2,3 学期	４レベル	歌の歌詞から文法を見る	週１コマ× 10 週
	日常会話の聴解 O５- a	２学期	５レベル	日常会話の聴解	週１コマ× 10 週
	日本の話芸を聞く O５- b	１学期	５レベル	落語やことば遊びを聞く	週１コマ× 10 週
	ニュースを聞く　O５- c	２学期	５レベル	様々なジャンルのニュースを聞く	週１コマ× 10 週
	ニュースを聞く　O５- d	３学期	５レベル	様々なジャンルのニュースを聞く	週１コマ× 10 週
	ドラマを作る　O５- e	２学期	５レベル	ラジオドラマを作る	週１コマ× 10 週
	TV ドラマの聴解　O５- f	2,3 学期	５レベル	TV ドラマを見て話す	週１コマ× 10 週

受講者が5名以上集まらないクラスは、その学期には開講しないこととしたが、受講者数は必ずしも学生のニーズの大きさを反映しておらず、他の授業がない時間帯というような物理的な条件によって決まる場合も見られた。

4.　2007年度のコース・カリキュラム改編

前節で報告したような経緯により、本センターの日本語プログラムのコース・カリキュラムの改編が検討されたが、その背景には、以下の3つのような解決するべき問題があった。

(1)　予備教育のクラス人数と補講のクラス人数のアンバランスの是正

予備教育コースに配置される大使館推薦の国費留学生の数が年々減少傾向にあり、さらに来日時期が春期に偏ってきている。そのため、春は約30名の日本語研修生のうち、ゼロ初級者が2クラス分程度、初中級の既習者が1クラス分程度でコースを運営できるが、秋冬の予備教育コースでは、大使館推薦の国費留学生は数人程度で、大学推薦の国費留学生の指導教員に声をかけて依頼があった場合には積極的に受け入れるようにしている。それでも、初級者は1クラス分程度しかいない場合が多くなってきている。教員研修留学生は、日本語初級者と中上級レベルの既習者とに両極化しており、日本語日本文化研修留学生および日韓共同理工系学部留学生は完全に中上級の既習者であるため、集中ではなく半集中で対応できる。そこで、秋学期は3クラス体制（ゼロ初級の集中クラス1、初中級の集中クラス1、中級の半集中クラスと上級の半集中クラスで合わせて1クラス分）で実施できるが、冬に中上級者が補講に出てしまうと、予備教育のクラスの学生数が激減してしまう。一方、補講コースの方は、大学全体の留学生数が増えていることから、1クラスの人数が増大する一方で、予備教育とのクラス人数のアンバランスがますます激化している。そこで、2007年度からは、予備教育の夏季コースおよび冬季コースのクラスを減らして、その分補講コースの充実を図るべきであろうという意見が出された。

(2)　短期留学生の急増に対応するための補講初級コースの充実

大学が国際連携に力を入れるようになるにつれて、大学間協定による短期留学生の数も急増し､年間100名近い短期留学生が来日するようになってきた。その中には日本語･日本文化学類との協定などによる中上級の短期留学生もいるが、大半は初級レベルである。彼等は、10か月から1年しか本学に滞在しないため、滞在中に初級から中級へと日本語のレベルアップを図りたいという希望を持っている者が多い。しかし、従来のコースカリキュラムでは、初級は、週4コマ10週間で4課ずつ進む6つのコースからなっていたため、初級を修了するのに6学期、2年間かかることになっていた。そこで、2007年度からは、初級を週5コマのコースに編成し直し、従来のテキスト『SFJ』の内

容を精選し、コンパクトにまとめなおした『SFJmini（仮称）』を使用して、1 学期 10 週間で 6 課進むというカリキュラムに変更することとした。近年の短期留学生の多くは、入門期の日本語教育を自国で終えて来るため、来日時に J200 レベルにプレースされれば、初級（J400 まで）を 1 年間で修了できることになり、J300 レベルにプレースされれば、1 年間で中級（J500）にレベルアップできることになるわけである。

(3)　補講の中上級レベル日本語コースの技能別整備

本学においては、短期留学生のためのニーズとして一般日本語力の強化あるいは日本文化理解に繋がるような日本語教育の必要性と同時に、大学院受験を目指す研究留学生のアカデミックな学習目的による日本語教育の必要性も依然として大きく、両者の混在は避けることができない現実である。したがって、中上級レベルにおいて、目的別に日本語コースを設定したり、テキストを選定したりすることにはあまり意義が認められなかったという結果を踏まえて、今後は、技能別にコースカリキュラム整備していくほうが効率的であろうという結論に達した。

そこで、J500（中級前期）、J600（中級後期）、J700（上級）というレベルを設定し、それぞれに文法を週 2 コマ、話す、聞く、読む、書くという 4 技能を各 1 コマで計週 6 コマ履修できるようにカリキュラムを立てることを計画した。日本語の文法および 4 技能において、どのレベルでどのようなことができるようになっている必要があるのかを考えていくことは、今後、大学側が留学生の来日前選抜などを採用するようになった場合、日本語能力の測定のために重要な課題となるであろう。

ただし、漢字圏、非漢字圏による漢字学習動機の違いや必要度の違いなどに配慮して、漢字のクラスは別立ての選択制とした。話す能力は高くても漢字力のない非漢字圏留学生もいる一方、漢字力はあっても、話したり聞いたりすることが苦手は漢字圏留学生もおり、学習段階において日本語のコースのレベルを一本化することは難しいからである。また、大学院の正規生や専門分野によって日本語学習になかなか時間がかけられない留学生のために、中上級レベルでは、日本語のクラスは週 1 コマから 6 コマまで自由にとれることにした。

以上、3 つの問題に対処するため、また同時に大学の各部局と同じく留学生センターにも予算削減および人員削減が求められるという流れの中で、2007（平成 19）年度には表 4 のような日本語コース・カリキュラムの改編が行われた。

表４　2007（平成 19）年度留学生センターの日本語コース概要

コース名	クラス	コマ数	対　象	主教材・内容	開講時期
日本語集中コース	春季クラス	週 20 コマ× 11 週	予備教育生	『ＳＦＪ』vol.1 ～ vol.2	4 月～ 6 月
	夏季クラス	週 20 コマ× 4 週	予備教育生	『ＳＦＪ』vol.3	7 月
	秋季クラス	週 20 コマ× 7 週	予備／教員研修生	『ＳＦＪ』vol.1 ～ vol.2	10 月～ 11 月末
	冬季クラス	週 20 コマ× 8 週	予備／教員研修生	『ＳＦＪ』vol.2 ～ vol.3	1 月～ 2 月
日本語半集中コース	春季クラス	週 10 コマ× 11 週	予備教育生	『ＳＦＪ』vol.2 ～ vol.3	4 月～ 6 月
	夏季クラス	週 10 コマ× 4 週	予備教育生	『ＳＦＪ』vol.3	7 月
	秋季クラス	週 10 コマ× 7 週	予備 / 教員 / 日研 / 日韓	中上級教材	10 月～ 11 月末
	冬季クラス	週 10 コマ× 8 週	予備／教員研修生	中上級教材	1 月～ 2 月
初級日本語コース	J100	週 5 コマ× 10 週	短期留学生および研究留学生	『ＳＦＪ』vol.1（L1-6）	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J200	週 5 コマ× 10 週		『ＳＦＪ』vol.1/2（L7-12）	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J300	週 5 コマ× 10 週		『ＳＦＪ』vol.2/3(L13-18)	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J400	週 5 コマ× 10 週		『ＳＦＪ』vol.3(L19-24)	4月~6月/9月~11月/12月~2月
技能別中上級日本語	J511-513 文法	週 1 コマ× 10 週		中級前期文法教材	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J514-516 文法	週 1 コマ× 10 週		中級前期文法教材	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J521-523 話す	週 1 コマ× 10 週		中級前期会話教材	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J531-533 聞く	週 1 コマ× 10 週		中級前期聴解教材	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J541-543 読む	週 1 コマ× 10 週		中級前期読解教材	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J551-553 書く	週 1 コマ× 10 週		中級前期作文教材	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J611-613 文法	週 1 コマ× 10 週		中級後期文法教材	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J614-616 文法	週 1 コマ× 10 週		中級後期文法教材	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J621-623 話す	週 1 コマ× 10 週		中級後期会話教材	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J631-633 聞く	週 1 コマ× 10 週		中級後期聴解教材	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J641-643 読む	週 1 コマ× 10 週		中級後期読解教材	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J651-653 書く	週 1 コマ× 10 週		中級後期作文教材	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J711-713 文法	週 1 コマ× 10 週		上級文法教材	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J714-716 文法	週 1 コマ× 10 週		上級文法教材	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J721-723 話す聞く	週 1 コマ× 10 週		上級会話・聴解教材	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J741-743 読む書く	週 1 コマ× 10 週		上級読解・作文教材	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J761-763 漢字語彙	週 1 コマ× 10 週		上級漢字語彙教材『IKB』vol.2	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J764-766 漢字語彙	週 1 コマ× 10 週		上級漢字語彙教材『IKB』vol.2	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	J771 情報処理日本語	週 1 コマ× 10 週		情報処理日本語教材	4月~6月/9月~11月/12月~2月
選択漢字クラス	K100	週 1 コマ× 10 週	短期留学生および研究留学生	『BKB』vol.1（L1-6）	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	K200	週 1 コマ× 10 週		『BKB』vol.1（L7-14）	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	K300	週 1 コマ× 10 週		『BKB』vol.1（L15-22）	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	K400	週 1 コマ× 10 週		『BKB』vol.2（L23-35）	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	K500	週 1 コマ× 10 週		『BKB』vol.2（L36-45）	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	K600	週 1 コマ× 10 週		『IKB』vol.1（L1-5）	4月~6月/9月~11月/12月~2月
	K700	週 1 コマ× 10 週		『IKB』vol.1（L6-10）	4月~6月/9月~11月/12月~2月

2007 年 1 学期には、実際に表 4 のようなコース編成で補講の授業が行われ、1 学期の学生による授業評価アンケートの結果からも、7 月に行われた日本語教員によるコース反省会においても、初級コースのカリキュラム改編に関しては、おおむね良い評価が得られた。しかし、現実問題としては、それまで 6 コースあった初級クラスが 4 コースになったことにより、1 クラスの受講人数が大きくなり、語学のクラスとしては適正人数を超えていると思われるクラスもあった。特に米国を中心に大勢の短期留学生が 2 学期に集中して来日することから、初級レベルにおいては、同じコースをダブル開講する必要があるという声が強くなった。

また、中上級クラスについても、「技能の強化というクラスの目的がはっきりしたのでわかりやすくなった」という肯定的評価が増えた一方、J500 レベルと J600 レベルで研修室に入りきれないほどの受講生が集まったクラスが出て、対応に追われる事態となった。中上級レベルでは週 1 コマでも履修可能ということにしたため、専門の勉強が忙しい留学生はすべての授業をとることは少ないだろうと予測していたのだが、コースカリキュラムの改編によって日本語の学習動機が高まったためか受講希望者が多く、特に「文法」クラスでは、60 名以上に達して急きょ他の建物の大教室を借りたりする必要も出た。また、「話す」クラスや「書く」クラスなどでは、受講生が 40 名を超えるようなサイズでは、実際に効果的な指導が難しいため、人数制限をしたりする事態も起こった。

このような事態に対処するため、2007 年 2 学期からは、初級の 2 レベルと、中上級の 2 レベルの「文法」「話す」「書く」の各クラスをダブル開講できるように予算措置をしてもらうことができた。おかげで 1 クラスの受講者人数も適正化されつつあり、ようやく 2007 年度のコースカリキュラム改編は落ち着きつつあるところである。

5. 今後の課題

さて、留学生センターの日本語コースは、2004 年度のコース再編時に実施されたコースのモジュール化をそのまま継続しつつ、2007 年度には初級レベルのカリキュラム改編、および中上級レベルにおける技能別のカリキュラムの整備を行っているところである。各コースにおいて、より多くの留学生が受講できるようになり、さらにクラスへの定着率も上がっていることなどが、1 学期・2 学期の登録データの延べ人数が増えていることから窺える。1 学期、2 学期の終了時に行った授業評価アンケートの結果からも、今回のカリキュラム改編は、おおむねよい評価を得ていると言えるのではなかろうか。

今後の課題としては、中上級レベルにおける技能別のカリキュラム整備をさらに進め、将来的には、本学に留学を希望する留学生が来日前に選抜されるシステムが実現する場合に備えて、遠隔地からも受験できるような技能別日本語能力判定テストの開発に繋げていく必要があると思われる。2007 年度は、コースの枠組み作りと受講生の人数への対応に

追われる 1 年であったが、初級レベルから中上級レベルに至るまで、技能別にどのような学習目標を立て、達成するべきスキルのシラバスを組み立てていくか、その内容作りとそれに対応する評価項目作りが 2008 年度以降の課題である。

さらに、2008 年度からは、大学院人文社会科学研究科に「国際地域研究」という前期課程と「国際日本研究」という後期課程の新専攻が立ち上がる予定であり、その中で、留学生センターの教員も日本語教育を専攻する大学院生の指導や日本語教師養成プログラムの指導に本腰を入れていかなければならなくなる。日本語教育の現場である留学生センターの日本語等教育部門が大学院における日本語教育研究および日本語教師養成にどのように関わっていくかが新たな課題であろう。また、大学院において正規生が日本語力の不足を補うために中上級の日本語科目を履修する場合、留学生センターで行っている中上級クラスを履修させることによって外国語科目の単位に振り替えることができるのではないかと期待される。

現在、留学生センターは、韓国京畿道の外国語教育研修院と学術交流協定を結び、その依頼を受けて、韓国の中学および高校の現職日本語教師の再研修プログラム実施に協力しているが、他にも、中央アジア連携センターや北アフリカセンターなどからの協力の要請もある。つくば地域に住む外国人に対する日本語教育への社会貢献の要請などもあり、新たな社会的ニーズも生まれつつあると言えよう。今後は、大学に在籍する外国人留学生に効果的な日本語教育を提供することにとどまらず、その日本語教育プログラム作りのノウハウや人材の養成、教材開発やテスト開発の研究、e- ラーニングの技術開発なども含めて、その成果を広く外界に発信していかなければならないと考える。

参考文献

堀口純子（1986）「筑波大学における日本語教育その十年」『筑波大学留学生教育センター日本語論集』第 1 号，89-109

加納千恵子（2005）「日本語教育の多目的化およびモジュール化　-2004 年度留学生センター日本語プログラムの製版報告 -」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』第 20 号，93-108